

目次

序にかえて——井上幸治
はしがり

I 歴史と人間——近代化の問題……井出孫六……三

一、犬も歩けば……五

一 講演によせて 5

二 直木賞のこと 6

三 職業病 8

二、流れの中で……一

一 ユー・シャル・ダイ 11

二 昭和二十年八月十五日 13

三 玉音放送 15

四 十四歳の転向 19

五 凌辱感——小説家への原点 22

六 ひとつの時代が終わったと思ったが……

三、再び疑問……………	二五
一 維新の外交と現在の外交	25
二 旧制中学在学中	27
三 父親が語った秩父騒動	30
四 なぜ山奥に自由民権運動が……	33
五 実際に山を越えてみた	35
四、近代の把え直し……………	三七
一 当時のリアルな距離	37
二 中央志向性と地図	39
三 多様性の先細り	40
四 電信柱をぶちくじく	41
五 権力と電信網	45
六 国の非行と峠の廃道	49

II

地下水の流れを阻むもの——秩父事件の現代的意味——

森山軍治郎……………五三

一、近代日本と北海道……………	五五
-----------------	----

一 「軍治郎」という名前	55
二 わが故郷・閉山の町	58
三 わが父母・流民の歴史	60
四 開拓農民の実態	63
五 幻のフロンティア・スピリット	67
六 抵抗の青年開拓者	70
二、貧民の子供史……………	七四
一 貧民のたくましさ	74
二 美意識の誕生	78
三 知識人文化との出会い	81
三、秩父事件とフランス革命……………	八五
一 困民党とサン・キュロット	85
二 民衆道徳と抵抗思想	89
三 平等思想の深化	92
四、モダニズムと民衆……………	九六
一 パリの田舎者	96
二 民衆の欧米憧憬	99

- 三 フランス民衆の実像 102
- 四 民衆の「個」と「共同体」 105
- 五、共同体の自己変革…………… 一一一
 - 一 秩父困民党と共同体 111

Ⅲ

民衆思想史とは何か——共同体とナショナリズム——

色川大吉…………… 一一七

- 一、現代と秩父事件…………… 一一九
 - 一 農民一揆の世界と秩父事件 119
 - 二 秩父事件の提起した問題 125
 - 三 底辺での思想の闘い…………… 127
 - 四 風土と共同体と…………… 133
 - 五 民衆の基本的意識 136
- 二、通俗道徳の二つの方向性…………… 一四二
 - 一 解放への回路と内縛の論理 142
- 三、民衆ナショナリズムと国権…………… 一五一
 - 一 「檀山節考」——幻想と怨念の果てに 151

- 二 「苦海浄土」——絶対への構築 155
- 三 「大和信仰」——もうひとつのナショナリズム 157
- 四、日本における「個」の成立…………… 一六一
 - 一 てき屋・その棄民の系譜 161
 - 二 「個」ゆえに 164
 - 三 共同体からの個 166
- 五、現代の中の伝統…………… 一六九
 - 一 三里塚から 169
 - 二 今一度の近代 173

あとがき…………… 一七七